

## 3.2. シビルエンジニアの定年退職後の雇用及び活動に関する調査

### 3.2.1. 個人アンケートの概略

#### (1) 調査目的

近い将来に定年退職を迎える、または既に定年退職を迎えたシニア層のシビルエンジニアが、どのような場で活動したいと考えているのか、実態を把握するために、平成 19 年度及び平成 24 年度に WEB アンケート調査を実施した。シニア土木技術者を取り巻く状況が変化していることを踏まえ、平成 29 年度においても WEB アンケート調査を実施し、シニア層のシビルエンジニアの退職後の活動に対して、各年代のシビルエンジニアがどのような考えを持っているのか把握する。

#### (2) 調査実施時期

- 2017 年 11 月 16 日～2018 年 1 月 31 日

#### (3) 調査対象者

- 若年層からシニアまで土木に関わる全ての年代

#### (4) 実施方法

- WEB 上でのアンケートで実施

#### (5) 実施方法

- 3,151 名 (2018 年 1 月 31 日時点)

#### (6) 設問内容・調査結果等

- 次頁以降に掲載

### 3.2.2. 企業アンケートの概略

#### (1) 調査目的

シニア土木技術者が担うべき役割や期待されている役割を把握するために、平成 19 年度及び平成 24 年度に企業内の定年退職後の技術者雇用に関する実態調査を実施した。シニア土木技術者を取り巻く状況が変化していることを踏まえ、再度、平成 29 年度においてもシニア土木技術者の雇用に関する実態調査を実施した。本アンケート結果は、シニア土木技術者の担うべき役割や活性化などを検討するための基礎資料とする。

#### (2) 調査実施時期

- 2017 年 8 月～2017 年 9 月末

#### (3) 調査対象者

- 土木学会会員数以上企業 204 社

#### (4) 実施方法

- 郵送

(5) 実施方法

- 120 社

(6) 設問内容・調査結果等

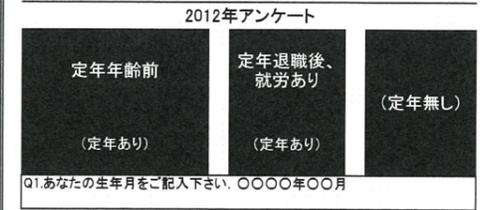
- 次頁以降に掲載

# 2017年 個人アンケート項目案

**定義**  
 定年到達前: 退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達する前  
 定年後: 退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後、就労している場合に主に使用  
 定年退職後: 退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後、退職した際に使用  
 継続雇用制度を利用: 退職するか、就労を続けるか決める年齢に達した後、就労する際の雇用制度

高齢者等職業安定対策基本方針 参照  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf)  
 「定年前」記載なし→「定年到達前」記載あり  
 「定年後」記載あり、「定年年齢」記載なし  
 「定年制度」ではなく、「定年制」  
 「継続雇用制度」記載あり

項目数	21	21	28	21	26	18	30	19	19	18	19	17	11	11
場合分け	就労中						就労なし				雇用側		その他	就労経験なし
	定年あり						定年あり				定年あり	定年無し		
	定年前		定年後	その他	定年無し		高齢者雇用制度を利用した	高齢者雇用制度を利用していない	その他	定年無し				
65歳未満定年		65歳以上定年把握していない			定年後	定年無し								
自身の質問	あなたの生年をご記入下さい。生年〇〇〇〇年 生月〇〇月 ※1900～2017限定、1～12限定、半角数字													
	あなたの性別を教えてください。男 女													



以下の設問では、現在のあなたの状況についてお聞かせください。

現在のあなたの立場としてふさわしいものをお選びください。

就労している	就労していない	雇用側(会社役員、経営者など)である	その他 ※具体的に記入ください	就労したことがない、学生である
あなたの所属する企業・組織に定年制はありますか？	あなたが最後に所属していた企業・組織に定年制はありましたか？	あなたの組織・企業に定年制はありますか？		
定年制がある	定年制があった	定年制がある	定年制はない	定年制はなかった
現在あなたは、定年到達前の就労ですか？定年後での就労ですか？	あなたは定年制を経験したことがありますか？	再雇用制度や勤務延長制度などの高齢者雇用制度を利用した定年後の就労経験はありますか？		
定年到達前での就労である	定年後で、定年前と同じ企業・組織での就労である	定年後で、定年前と異なる企業・組織での就労である	その他 ※具体的に記入ください	ある
現在、どのような分野の仕事をされていますか？最もふさわしいものを記入ください。	現在、何か活動はされていますか？当てはまる項目にチェックをしてください。また、それぞれの程度続けているか枠内に数字をご記入ください。※どの程度続けているか、回答が難しい場合は、0とご記入ください。	あなたの年収をお答えください。 ※税込み、概算でご記入ください。 ※100万円以下の場合、0と記入してください。 ※100万円以下の場合、小数点を使用して記入してください。	あなたの年収をお答えください。 ※税込み、概算でご記入ください。 ※100万円以下の場合、0と記入してください。 ※100万円以下の場合、小数点を使用して記入してください。	あなたの年収をお答えください。 ※税込み、概算でご記入ください。 ※100万円以下の場合、0と記入してください。 ※100万円以下の場合、小数点を使用して記入してください。

Q2. 所属している企業、組織の定年退職の制度は、どのようなものですか？最もふさわしいものをお答えください。

1. 定年退職制度あり(〇歳)で定年退職  
 2. 定年退職制度が存在しない

Q3. 現在、どのような分野の仕事をされていますか？最もふさわしいものをお答えください。

1. 技術専門職(設計・技術)  
 2. 営業職  
 3. 企画職  
 4. 研究職  
 5. 現場(現場・事業所勤務)  
 6. 事務職  
 7. その他

Q4. あなたの年収(年金収入を除く、税込み、概算)を百万円単位でお答えください。

現状

通勤時間、勤務時間は、定年到達前と比べてどのように変化しましたか。 ※変わらない場合を100として、2倍になる場合は、「200」(%)、半分になる場合は、「50」(%)と入力してください。

現在の待遇に満足していますか？  
 1. 大変満足している  
 2. 概ね満足している  
 3. 多少不満である  
 4. 大いに不満である

現在の待遇に[前の回答]理由を教えてください。



2017年 個人アンケート項目案

定義 定年前:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達する前 定年後:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後で、就労している場合に主に使用 定年退職後:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後で、退職した際に使用 継続雇用制度を利用:退職するか、就労を続けるか決める年齢に達した後で、就労する際の雇用制度	高齢者等職業安定対策基本方針 参照 http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf 「定年前」記載なし→「定年到達前」記載あり 「定年後」記載あり、「定年年齢」記載なし 「定年制度」ではなく、「定年制」 「継続雇用制度」記載あり
--	---

項目数	21	21	28	21	26	18	30	19	19	18	19	17	11	11
場合分け	就労中						就労なし				雇用側		その他	就労経験なし
	定年あり						定年あり				定年あり	定年無し		
	定年前		定年後		その他		定年後		その他		定年無し			
	65歳未満定年		65歳以上定年把握していない				高齢者雇用制度を利用した		高齢者雇用制度を利用していない					

以下の設問では、あなたの定年退職後の活動についての考えをお聞かせください。

定年後に行きたいと思っていることをご記入ください。また、それぞれの程度続けたいと考えているかご記入ください。※どの程度続けたいか、回答が難しい場合は、「0」とご記入ください。

- 現在の組織・企業での就業「年程度」
- 現在とは異なる組織・企業での就業「年程度」
- NPO・NGO等での活動「年程度」
- 起業・独立「年程度」
- ボランティア活動「年程度」
- 地域コミュニティ活動「年程度」
- 趣味・習い事等「年程度」
- 国内旅行「回数/年」
- 海外旅行「回数/年」
- 二地域居住「年程度」
- なにもやりたくない
- その他 ※詳しくご記入ください

※改行位置を変更したが、パソコンの画面の表示の仕方、スマホ等で見え方は変わってしまう  
※年数の記入は必須

現在の就労が終了後に行きたいと思っていることをご記入ください。また、それぞれの程度続けたいと考えているかご記入ください。※どの程度続けたいか、回答が難しい場合は、「0」とご記入ください。

- 現在の組織・企業での就業「年程度」 ※年数の記入は必須
- 現在とは異なる組織・企業での就業「年程度」
- NPO・NGO等での活動「年程度」
- 起業・独立「年程度」
- ボランティア活動「年程度」
- 地域コミュニティ活動「年程度」
- 趣味・習い事等「年程度」
- 国内旅行「回数/年」
- 海外旅行「回数/年」
- 二地域居住「年程度」
- その他の活動1 ※具体的な内容および、どれだけ続けたいかをご記入下さい
- その他の活動2 ※具体的な内容および、どれだけ続けたいかをご記入下さい
- なにもやりたくない
- その他 ※詳しくご記入ください

今後行きたいと思っていることをご記入ください。また、それぞれの程度続けたいと考えているかご記入ください。

- 組織・企業での就労
- NPO・NGO等での活動
- 起業・独立
- ボランティア活動
- 地域コミュニティ活動
- 趣味・習い事等
- 国内旅行
- 海外旅行
- 二地域居住
- その他・(詳しく)
- その他・(詳しく)
- なにもやりたくない
- その他 ※詳しくご記入ください

現在の立場を退いた後、行きたいと思っていることをご記入ください。また、それぞれの程度続けたいと考えているかご記入ください。

現在とは異なる組織・企業での就業  
NPO・NGOなどでの活動  
起業・独立  
ボランティア活動  
地域コミュニティ活動  
趣味・習い事  
国内旅行  
海外旅行  
二地域居住  
何もしない

定年後の身の活動について

「0」を行きたいと思っていた理由をお選び下さい。

定年後に、行きたいと思っていること、現在の就労が終了後、行きたいとおもっていること	今後行きたいと思っていること				現在の立場を退いた後、おこないたいこと							
	現在の組織	異なる組織	NPO・NGO	起業・独立	組織・企業での就労	NPO・NGO	起業・独立	現在の組織での就労	異なる組織での就労	異なる組織の経営	NPO・NGO	起業・独立
組織・企業から要請がある(と思われる)から	○	○	○	○	組織・企業から要請があるから	○	○	○	○	○	○	○
仕事内容が好きだから	現在の仕事内容が好きだから	就労したい組織・企業の内容が好きだから	活動を行いたいNPO・NGOの仕事内容が好きだから	やりたい仕事内容があるから	仕事内容が好きだから	就労したい組織・企業の内容が好きだから	活動を行いたいNPO・NGOの仕事内容が好きだから	やりたい仕事内容があるから	仕事内容が好きだから	現在の仕事内容が好きだから	就労したい組織・企業の内容が好きだから	やりたい仕事内容があるから
職場が好きだから	現在の職場が好きだから	就労したい組織・企業の職場の雰囲気がよさそうだから	活動を行いたいNPO・NGOの職場の雰囲気がよさそうだから		職場が好きだから	就労したい組織・企業の職場の雰囲気がよさそうだから	活動を行いたいNPO・NGOの職場の雰囲気がよさそうだから		職場が好きだから	○	就労したい組織・企業の職場の雰囲気がよさそうだから	
現在の職場に嫌気がさしたから	○	○	○	○	現在の職場に嫌気がさしたから	○	○	○	○	○	○	○
次世代の育成がしたから	○	○	○	○	次世代の育成がしたから	○	○	○	○	○	○	○
自分の経験を社会に役立てたいから	○	○	○	○	自分の経験を社会に役立てたいから	○	○	○	○	○	○	○
社会との関わりを維持したいから	○	○	○	○	社会との関わりを維持したいから	○	○	○	○	○	○	○
新しいことにチャレンジがしたいから	○	○	○	○	新しいことにチャレンジがしたいから	○	○	○	○	○	○	○
収入がほしいから	○	○	○	○	収入がほしいから	○	○	○	○	○	○	○
知り合いがやっているから	○	○	○	○	知り合いがやっているから	○	○	○	○	○	○	○
経営者になりたいから	○	○	○	○	経営者になりたいから	○	○	○	○	○	○	○
その他 ※詳しくご記入ください	○	○	○	○	その他 ※詳しくご記入ください	○	○	○	○	○	○	○

以下の設問では、定年退職後の活動について、あなたの考えをお聞かせください。

定年退職後のシビルエンジニアが就労・社会参加するためには、何が重要だと思いますか。

定年前に身につけた専門知識  
定年前に有した人脈  
海外勤務経験  
企画・実行力  
リーダーシップ  
語学力  
コミュニケーション能力  
マネジメント能力  
若手社員を育成する能力  
パソコンを使いこなせる能力  
IoT・人工知能(AI)などの革新的な技術に対応する能力  
謙虚さ・柔軟性(かつての部下を上司として受け入れられる、自分の価値観を押し付けけないなど)  
その他 ※詳しくご記入ください

**★要確認項目**

定年退職後の活動に関してご意見がありましたらご記入下さい。 ※回答必須にはしない ※1000文字  
※高齢者雇用制度に対する意見、趣味の内容等、どのようなことでも構いません。

2012年アンケート

定年年齢前 (定年あり)	定年退職後、就労あり (定年あり)	(定年無し)
-----------------	----------------------	--------

- Q5. 定年退職後に行きたいと思っていることをご記入ください。(複数回答) また、それぞれの程度続けたいと考えているかご記入ください。
- 現在の組織・企業での就業
  - 現在とは異なる組織・企業での就業
  - ボランティア活動
  - 地域コミュニティ活動
  - 趣味・習い事等
  - 国内旅行
  - 海外旅行
  - 二地域居住
  - 何もしない
  - その他

- Q7. Q5で 1, 2 をお選びになった方のみお答え下さい。その理由をお選び下さい。(複数回答)
- 組織・企業からの要請のため
  - 現在の仕事内容が好きだから
  - 現在の職場が好きだから
  - 自分の経験を社会に役立てたいから
  - 社会との関わりを維持したいから
  - 次世代の育成のため
  - 収入のため
  - 他にしたいことがないから
  - その他
  - 「9. その他」をお選びの方は、その理由をご記入下さい

- Q9. その他、定年退職後の活動に関してご意見がありましたらご記入下さい。(再雇用制度)
- Q9. その他、定年退職後の活動に関してご意見がありましたらご記入下さい。(再雇用制度)





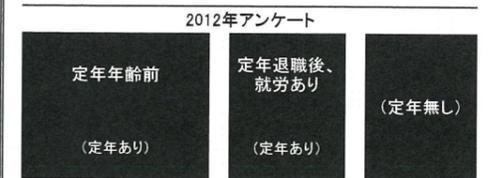


2017年 個人アンケート項目案

定義  
 定年到達前: 退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達する前  
 定年後: 退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後で、就労している場合に主に使用  
 定年退職後: 退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後で、退職した際に使用  
 継続雇用制度を利用: 退職するか、就労を続けるか決める年齢に達した後で、就労する際の雇用制度

高齢者等職業安定対策基本方針 参照  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf)  
 「定年前」記載なし→「定年到達前」記載あり  
 「定年後」記載あり、「定年年齢」記載なし  
 「定年制度」ではなく、「定年制」  
 「継続雇用制度」記載あり

項目数	21	21	28	21	26	18	30	19	19	18	19	17	11	11
場合分け	就労中						就労なし				雇用側		その他	就労経験なし
	定年あり						定年あり				定年あり	定年無し		
	定年前		定年後	その他	定年無し		定年後		その他	定年無し				
65歳未満定年		65歳以上定年把握していない			定年後	定年無し	高齢者雇用制度を利用した	高齢者雇用制度を利用していない						



以下の設問は、高齢者雇用制度を利用した就労を退職する当時の状況についてお答えください。

高齢者雇用制度を利用した当時の状況

	当時と同じ組織	異なる組織	NPO・NGO	起業・独立
組織・企業から要請があったから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
仕事内容が好きだったから	当時の仕事内容が好きだったから	就労したい組織・企業の仕事内容が好きだから	活動を行いたいNPO・NGOの仕事内容が好きだったから	やりたい仕事内容があったから
職場が好きだったから	当時の職場が好きだったから	就労したい組織・企業の職場の雰囲気よさそうだったから	活動を行いたいNPO・NGOの職場の雰囲気がよさそうだったから	
現在の職場に嫌気がさしたから		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
次世代の育成がしたから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分の経験を社会に役立てたいから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
社会との関わりを維持したいから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
新しいことにチャレンジしたいから		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
収入がほしいから	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
知り合いがやっているから			<input type="radio"/>	
経営者になりたいから				<input type="radio"/>
その他 ※詳しくご記入ください	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

高齢者雇用制度を利用した就労を退職する当時、どのような分野の仕事をしていましたか？最もふさわしいものを記入ください。

- ①技術職(設計、計画、技術)
- ②技術職(品質管理、技術管理等)
- ③現場(現場、事業所勤務)
- ④企画職
- ⑤営業職
- ⑥事務職
- ⑦研究職
- ⑧行政職(技術)
- ⑨行政職(事務)
- ⑩教育職

当時の年収をお答えください。  
 ※税込み、概算でご記入ください。  
 ※ない場合は、0と記入してください。  
 ※1百万円以下の場合は、小数点を使用して記入してください。  
 就労年収・〇百万円  
 年金に年収・〇百万円  
 その他の年収 ※株、不動産などの個人管理のもの・〇百万円

通勤時間、勤務時間は、定年前と比べてどのように変化しましたか。

退職後に、行いたいと思っていたことをご記入ください。  
 また、それぞれ定年退職後にどの程度続けたいと考えていたかをご記入ください。

1. 当時の組織・企業での就業
2. 当時とは異なる組織・企業での就業
3. NPO・NGOに所属
4. 起業・独立
5. ボランティア活動
6. 地域コミュニティ活動
7. 趣味・習い事等
8. 国内旅行
9. 海外旅行
10. 二地域居住
11. 何もやりたくなかった
12. その他

「就労」を行いたいと思っていた理由を教えてください。

よろしければ、(何もやりたくない)理由を教えてください。 ※回答必須にはしない(100文字)

当時の待遇に満足していますか？  
 1. 大変満足していた  
 2. 概ね満足していた  
 3. 多少不満であった  
 4. 大いに不満であった

現在の待遇に[前の回答]理由を教えてください。



# 2017年 個人アンケート項目案

**定義**  
 定年到達前:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達する前  
 定年後:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後で、就労している場合に主に使用  
 定年退職後:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後で、退職した際に使用  
 継続雇用制度を利用:退職するか、就労を続けるか決める年齢に達した後で、就労する際の雇用制度

高齢者等職業安定対策基本方針 参照  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf)  
 「定年前」記載なし→「定年到達前」記載あり  
 「定年後」記載あり、「定年年齢」記載なし  
 「定年制度」ではなく、「定年制」  
 「継続雇用制度」記載あり

項目数	21	21	28	21	26	18	30	19	19	18	19	17	11	11
場合分け	就労中						就労なし				雇用側		その他	就労経験なし
	定年あり						定年あり				定年あり	定年無し		
	定年前		定年後	その他	定年無し		高年齢雇用制度を利用した	高齢者雇用制度を利用していない	その他	定年無し				
65歳未満定年	65歳以上定年把握していない	定年後			定年無し									

以下の設問では、定年退職後のシニア技術者の就労に対する、あなたの意見をお聞きます。  
 あなたの所属する企業・組織の定年制度について、もう少し詳しく教えてください。

定年退職後の就労に関する意見の導入	定年年齢を教えてください。 ※具体的な年齢がわかる場合は、数字をご記入ください。 ※具体的な数字がわからない場合は、「0」とご記入ください。													
	65歳未満の定年制度(●歳)	65歳以上の定年(●歳)把握していない												
	あなたの企業・組織の継続雇用制度(定年後の従業員の主な雇用制度)を教えてください。 勤務延長制度 再雇用制度 両制度(勤務延長制度、再雇用制度)併用 把握していない その他 ※くわしく教えてください											65歳未満定年と回答のみ質問		

定年退職後のシニア技術者の就労のあり方について、あなたの意見をお聞きかせください。

定年後のシニア技術者が就労することに対して、あなたの意見に最も近いものをお選び下さい。

定年後も、それまでと同様に就業してほしい  
 定年後は、嘱託・契約社員やパート・アルバイトなど、勤務時間を少なくして就業してほしい  
 定年後は、就業しないしてほしい  
 その他 ※具体的に教えてください  
 特に意見はない

その理由をお選び下さい。(複数回答)  
 【仕事を辞めてほしい理由】  
 仕事以外の社会活動や趣味を行って欲しいから  
 労働力として必要がないと思うから  
 健康上の不安が考えられるから  
 新規採用の減少が懸念されるから  
 若手層の昇格・昇給に影響するから  
 中間層の昇格・昇給に影響するから  
 仕事以外の付き合いの相手が面倒だから  
 組織の方針や環境等の変化・IoTやAIなどの技術革新について来るのが難しいから  
 その他 ※理由も含め、具体的にご記入ください

【仕事を続けてほしい理由】  
 従来通りの企業の戦力として必要だから  
 資格保持者として必要だから  
 豊富な経験を生かした技術などの仕事の相談相手として必要だから  
 技術の伝承など、次世代の育成に必要だから  
 海外勤務経験などが海外プロジェクトに必要だから  
 仕事以外の付き合いや相談相手として必要だから  
 労働者として必要だから  
 その他 ※理由も含め、具体的にご記入ください

シニア技術者の定年退職後の活動に関して、**シニア技術者に対して**望むことをご記入下さい。 ※回答必須にはしない ※1000文字  
 ※シニア技術者に対して:豊富な経験・技能等の継承に努めてほしい、仕事以外の趣味の時間・家族団楽の時間を大切にほしい、退職金等で旅行をたくさんしてほしいなど、どのようなことでも構いませんので、できるだけ具体的に記入ください。

シニア技術者の定年退職後の活動に関して、**政府や企業に対して**望むことをご記入下さい。 ※回答必須にはしない ※1000文字  
 ※後輩よりも下位の職位にならないよう、考慮して欲しい、定年退職後を考えて、在職時から人材開発して欲しい、退職後のコミュニティとして、中途退職者も含めたOB、OGのネットワーク支援をして欲しいなど、どのようなことでも構いませんので、できるだけ具体的に記入ください。



Q15. 定年退職後、シニア技術者が就業することに対してあなたの意見をお選び下さい。  
 1. 今までと同様に就業して欲しい  
 2. 今までよりは勤務時間が少なくても良いので就業して欲しい  
 3. 就業する必要はない  
 4. 就業しないしてほしい  
 5. その他 ※具体的に教えてください  
 特に意見はない

Q15. 定年退職後、シニア技術者が就業することに対してあなたの意見をお選び下さい。  
 1. 今までと同様に就業して欲しい  
 2. 今までよりは勤務時間が少なくても良いので就業して欲しい  
 3. 就業する必要はない  
 4. 就業しないほしい  
 5. その他 ※具体的に教えてください  
 特に意見はない

Q16. Q15で1, 2をお選びになった方のみお答え下さい。その理由をお選び下さい。(複数回答)  
 1. 従来通りの企業の戦力として活躍して欲しいから  
 2. 資格保持者として必要だから  
 3. 豊富な経験を生かした品質管理・相談相手等として必要だから  
 4. 技術の継承等次世代の育成に必要だから  
 5. その他  
 「5. その他」をお選びの方は、

Q16. Q15で1, 2をお選びになった方のみお答え下さい。その理由をお選び下さい。(複数回答)  
 1. 従来通りの企業の戦力として活躍して欲しいから  
 2. 資格保持者として必要だから  
 3. 豊富な経験を生かした品質管理・相談相手等として必要だから

Q17. Q15で3, 4をお選びになった方のみお答え下さい。その理由をお選び下さい。(複数回答)  
 1. 仕事以外の余暇時間を重視して欲しいから  
 2. 仕事以外の社会活動を行って欲しいから

Q17. Q15で3, 4をお選びになった方のみお答え下さい。その理由をお選び下さい。(複数回答)  
 1. 仕事以外の余暇時間を重視して欲しいから  
 2. 仕事以外の社会活動を行って欲しいから

Q18. その他、シニア技術者の定年退職後の活動に対して望むことをご記入下さい。(豊富な経験・技能等の継承に努めて欲しい(具体的には・・・)、仕事以外の趣味の時間・家族団楽の時間を大切にしたい、他)

Q18. その他、シニア技術者の定年退職後の活動に対して望むことをご記入下さい。(豊富な経験・技能等の継承に努めて欲しい(具体的には・・・)、仕事以外の趣味の時間・家族団楽の時間を大切にしたい、他)

Q18. その他、シニア技術者の定年退職後の活動に対して望むことをご記入下さい。(豊富な経験・技能等の継承に努めて欲しい(具体的には・・・)、仕事以外の趣味の時間・家族団楽の時間を大切にしたい、他)

Q18. その他、シニア技術者の定年退職後の活動に対して望むことをご記入下さい。(豊富な経験・技能等の継承に努めて欲しい(具体的には・・・)、仕事以外の趣味の時間・家族団楽の時間を大切にしたい、他)



# 2017年 個人アンケート項目案

定義  
 定年到達前:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達する前  
 定年後:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後で、就労している場合に主に使用  
 定年退職後:退職するか、就労を続けるか、決める年齢に達した後で、退職した際に使用  
 継続雇用制度を利用:退職するか、就労を続けるか決める年齢に達した後で、就労する際の雇用制度

高齢者等職業安定対策基本方針 参照  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koureisha/topics/dl/tp0903-559.pdf)  
 「定年前」記載なし→「定年到達前」記載あり  
 「定年後」記載あり、「定年年齢」記載なし  
 「定年制度」ではなく、「定年制」  
 「継続雇用制度」記載あり

項目数	21	21	28	21	26	18	30	19	19	18	19	17	11	11
場合分け	就労中						就労なし				雇用側		その他	就労経験なし
	定年あり						定年あり				定年あり	定年無し		
	定年前		定年後	その他	定年無し		定年後		その他	定年無し				
65歳未満定年		65歳以上定年把握していない			高齢者雇用制度を利用した	高齢者雇用制度を利用していない								

最後に、あなたについてお尋ねします。

基本情報	業種をお選び下さい。 学校 学会 官庁・独立行政法人 地方公共団体 水関係(水資源機構、下水道事業団等) その他公社(地域振興整備公社、宇宙研究開発機構等) 協会 鉄道(JR、私鉄、鉄道建設・運輸施設整備支援機構等) 道路会社 電力・ガス 建設業 コンサルタント 製造 その他 ※くわしくご記入ください	最後に所属していた企業・組織での業種をお選び下さい。 学校 学会 官庁・独立行政法人 地方公共団体 水関係(水資源機構、下水道事業団等) その他公社(地域振興整備公社、宇宙研究開発機構等) 協会 鉄道(JR、私鉄、鉄道建設・運輸施設整備支援機構等) 道路会社 電力・ガス 建設業 コンサルタント 製造 その他 ※くわしくご記入ください	
	所属する組織の従業員数をお選びください。 20名未満 20名以上 100名未満 100名以上 300名未満 300名以上 1000名未満 1000名以上 3000名未満 3000名以上 10000名未満 10000名以上 その他 ※くわしくご記入ください	最後に所属していた企業・組織の従業員数をお選びください。 20名未満 20名以上 100名未満 100名以上 300名未満 300名以上 1000名未満 1000名以上 3000名未満 3000名以上 10000名未満 10000名以上 その他 ※くわしくご記入ください	
	あなたは土木学会員ですか？ 会員(フェロー会員) 会員(正会員) 会員(特別会員) 会員(名誉会員) 現在非会員だが、過去に土木学会員だったことがある。 非会員	あなたは土木学会員ですか？ 1. 会員(フェロー会員) 2. 会員(正会員) 3. 現在非会員だが、過去に土木学会員だったことがある。 4. 非会員	あなたは土木学会員ですか？ 1. 会員(フェロー会員) 2. 会員(正会員) 3. 現在非会員だが、過去に土木学会員だったことがある。

本アンケートに対してのご意見・ご要望がございましたら、下記にご記入ください。 ※回答必須にはしない

以上でアンケートはすべて終了です。ご協力ありがとうございました。

## 2012年アンケート

定年年齢前 (定年あり)	定年退職後、 就労あり (定年あり)	(定年無し)
最後に、あなたについてお尋ねします。 Q19. 業種をお選び下さい。 1. 学校・学会 2. 官庁・独立行政法人 3. 地方公共団体 4. 水関係(水資源機構、下水道事業団等) 5. その他公社(地域振興整備公社、宇宙研究開発機構等) 6. 協会等 7. 鉄道(JR、私鉄、鉄道建設・運輸施設整備支援機構等) 8. 道路会社 9. 電力・ガス 10. 建設業 11. コンサルタント 12. 製造 13. その他	最後に、あなたについてお尋ねします。 Q19. 業種をお選び下さい。 1. 学校・学会 2. 官庁・独立行政法人 3. 地方公共団体 4. 水関係(水資源機構、下水道事業団等) 5. その他公社(地域振興整備公社、宇宙研究開発機構等) 6. 協会等 7. 鉄道(JR、私鉄、鉄道建設・運輸施設整備支援機構等) 8. 道路会社	最後に、あなたについてお尋ねします。 Q19. 業種をお選び下さい。 1. 学校・学会 2. 官庁・独立行政法人 3. 地方公共団体 4. 水関係(水資源機構、下水道事業団等) 5. その他公社(地域振興整備公社、宇宙研究開発機構等) 6. 協会等 7. 鉄道(JR、私鉄、鉄道建設・運輸施設整備支援機構等)
Q20. 所属する組織の従業員数をお選びください。 1. 所属なし 2. 20名未満 3. 20名以上 100名未満 4. 100名以上 300名未満 5. 300名以上 1000名未満 6. 1000名以上 3000名未満 7. 3000名以上 10000名未満 8. 10000名以上	Q20. 所属する組織の従業員数をお選びください。 1. 所属なし 2. 20名未満 3. 20名以上 100名未満 4. 100名以上 300名未満 5. 300名以上	Q20. 所属する組織の従業員数をお選びください。 1. 所属なし 2. 20名未満 3. 20名以上 100名未満 4. 100名以上 300名未満 5. 300名以上
Q21. あなたは土木学会員ですか？ 1. 会員(フェロー会員) 2. 会員(正会員) 3. 現在非会員だが、過去に土木学会員だったことがある。 4. 非会員	Q21. あなたは土木学会員ですか？ 1. 会員(フェロー会員) 2. 会員(正会員) 3. 現在非会員だが、過去に土木学会員だったことがある。	Q21. あなたは土木学会員ですか？ 1. 会員(フェロー会員) 2. 会員(正会員) 3. 現在非会員だが、過去に土木学会員だったことがある。



## 「シビルエンジニアの定年退職後の活動に関する意向・実態調査」

### 調査結果

2018年3月5日

土木学会 教育企画・人材育成委員会  
成熟したシビルエンジニア活性化小委員会  
委員長 加藤 隆  
担当委員兼幹事 山崎 廉予

#### 1. 調査要領

##### 1-1. 調査目的

- ① 近い将来に定年退職を迎える、または既に定年退職を迎えたシニア層のシビルエンジニアが、どのような場で活動したいと考えているのか、実態を把握する。
- ② シニア層のシビルエンジニアの退職後の活動に対して、各年代のシビルエンジニアがどのような考えを持っているのか把握する。

1-2. 調査 実施時期： 2017年 11月 16日～ 2018年 1月 31日

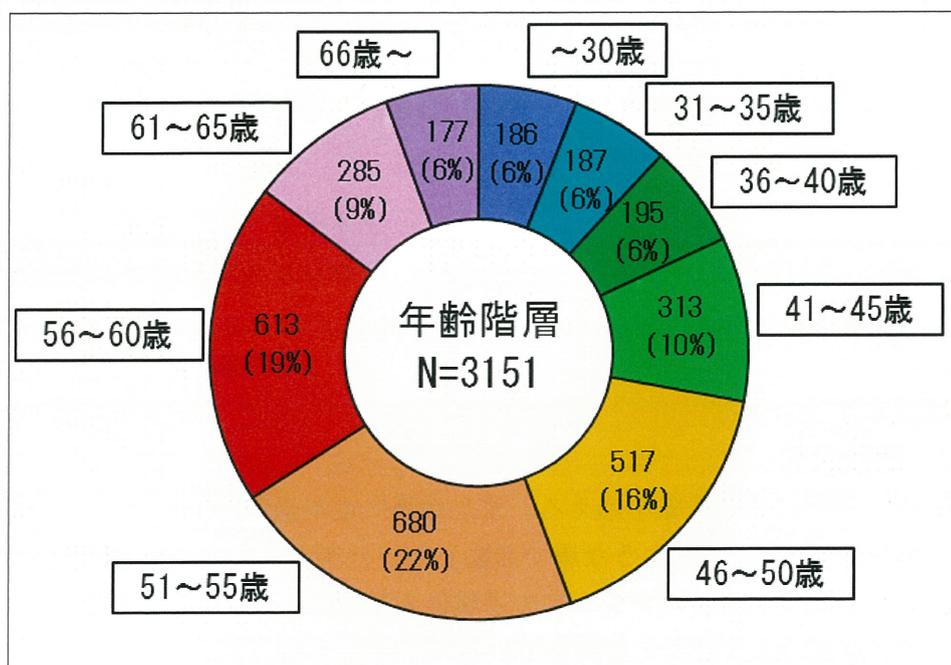
1-3. 調査 対象者： 若年層からシニア まで、土木に関わるすべての年代の方々

1-4. 実施方法： WEB 上でのアンケート実施

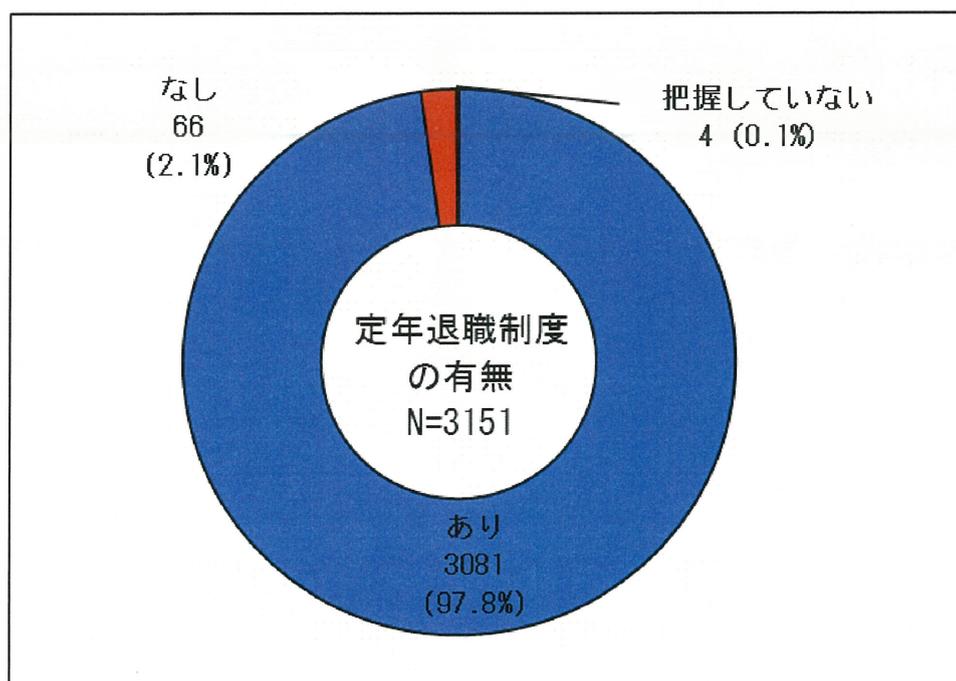
1-5. 回答者数： 回答者数： 3,151 名（2018年 1月 31日時点）

## 2. 調査結果

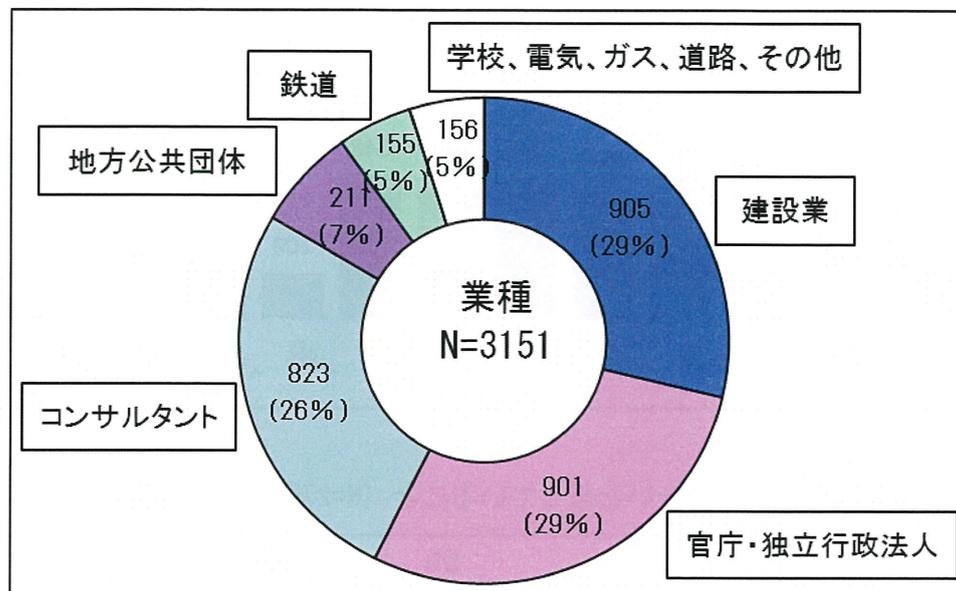
## 2-1. 回答者の年齢階層の割合



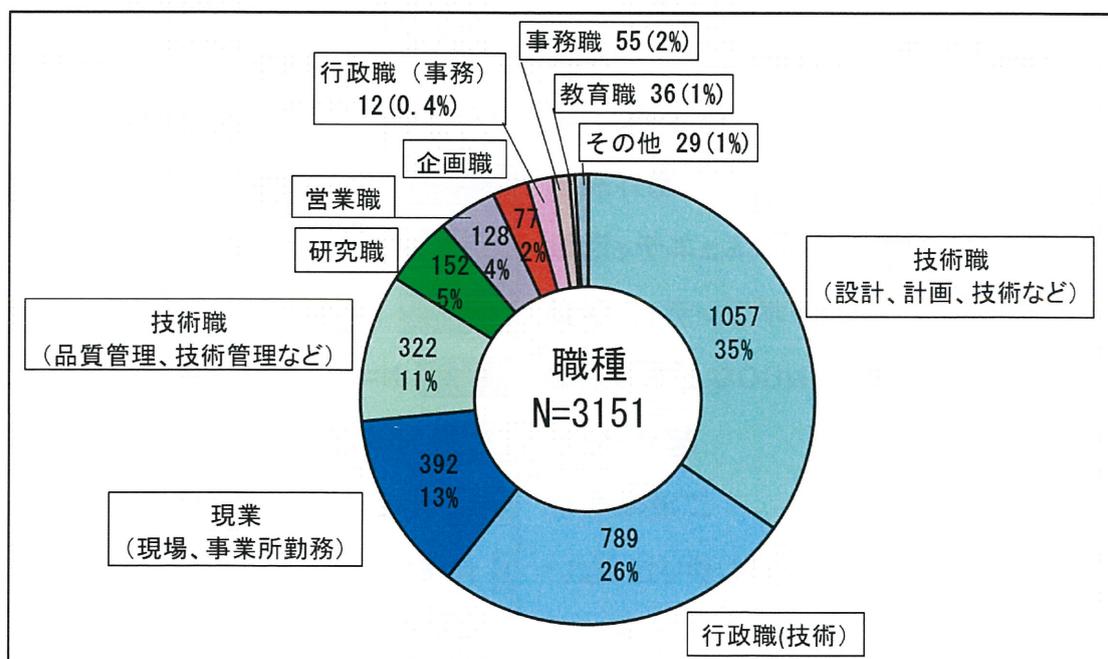
## 2-2. 回答者の定年退職制度の有無



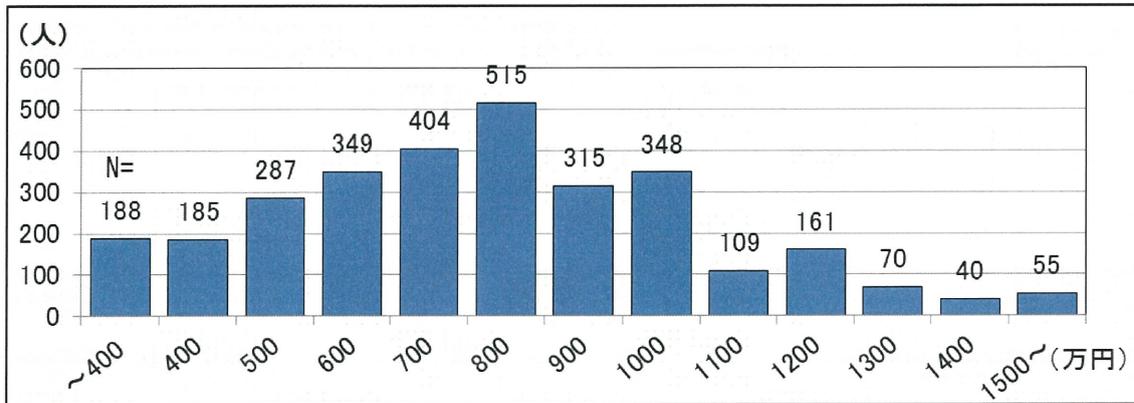
## 2-3. 回答者の業種の割合



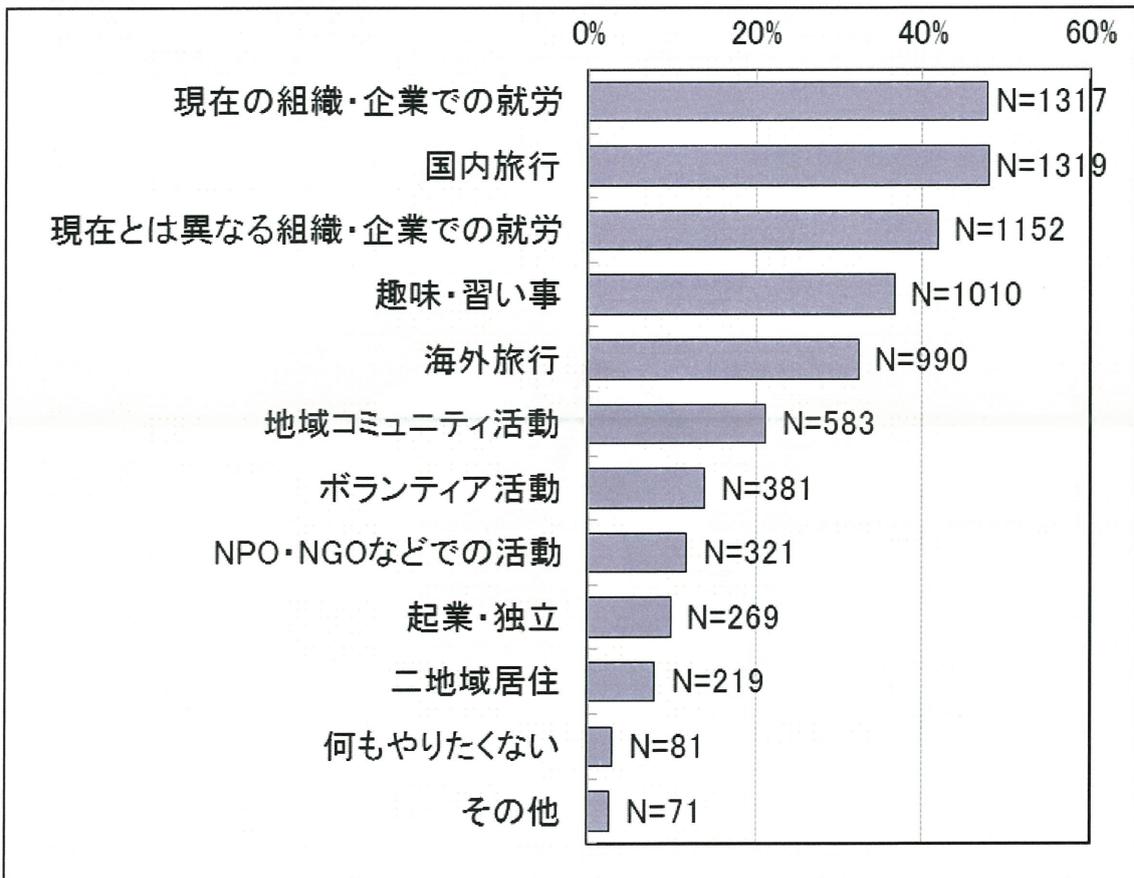
## 2-4. 回答者の職種の割合



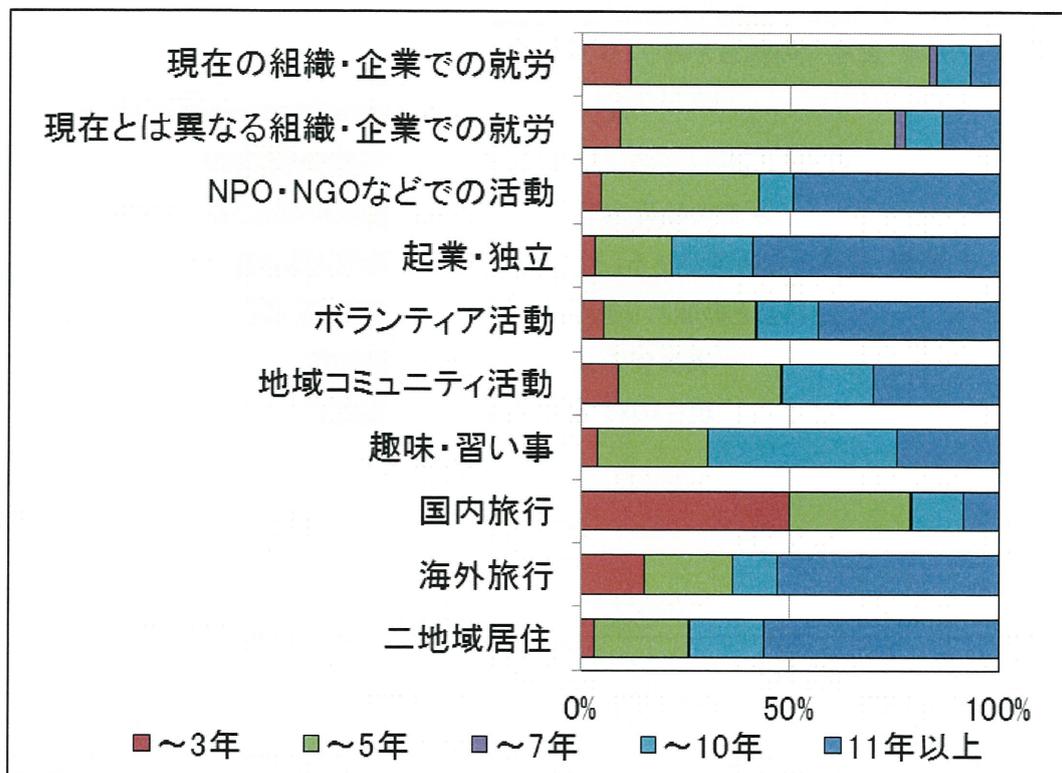
2-5. 回答者の年収 (N=2146, 百万円単位)



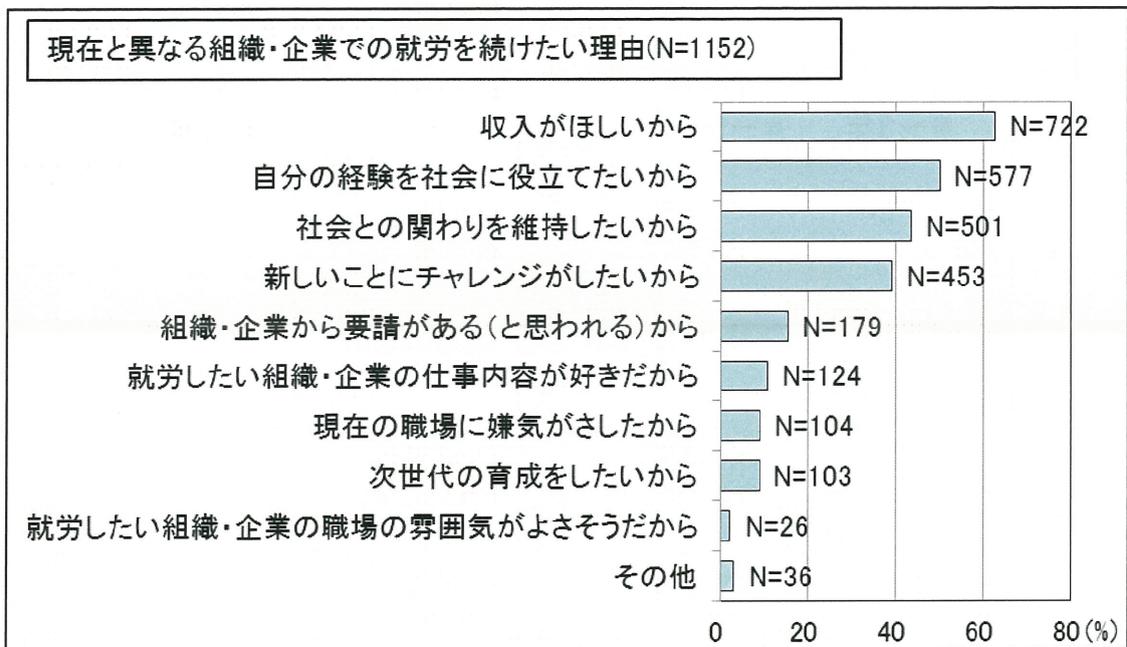
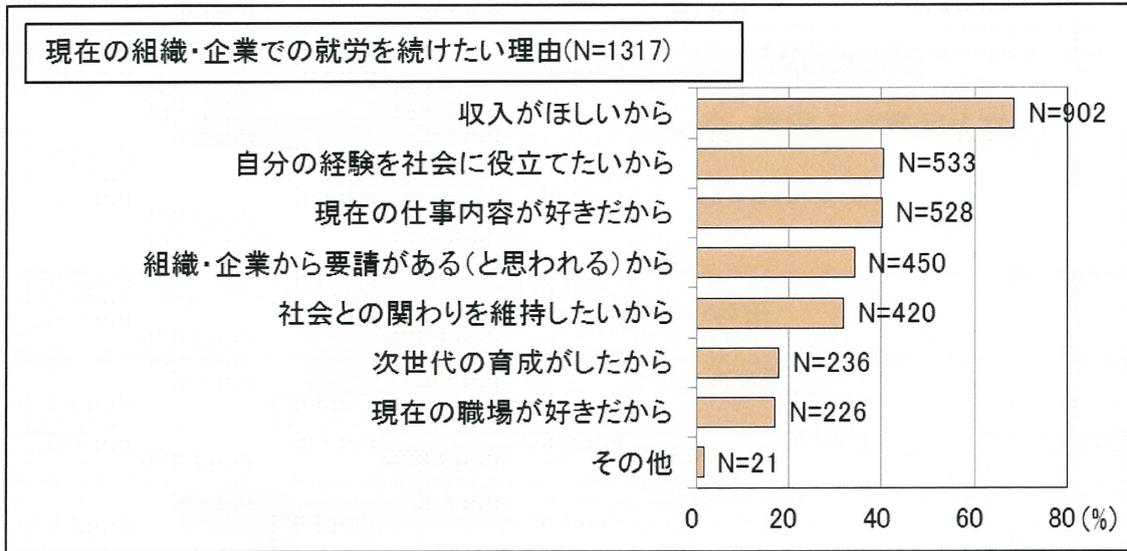
2-6. 定年退職後に行いたいと思っていること (N=2752, 複数回答)

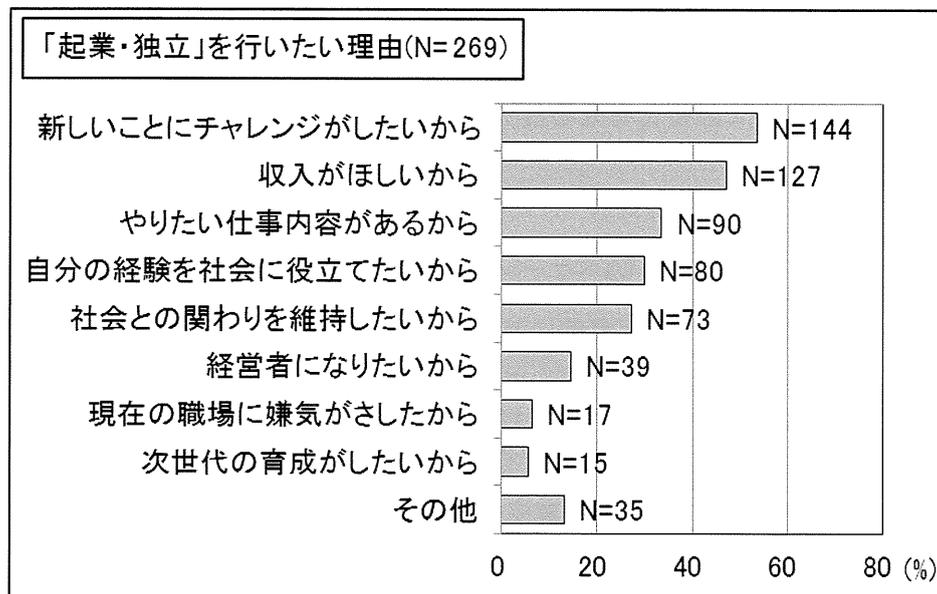
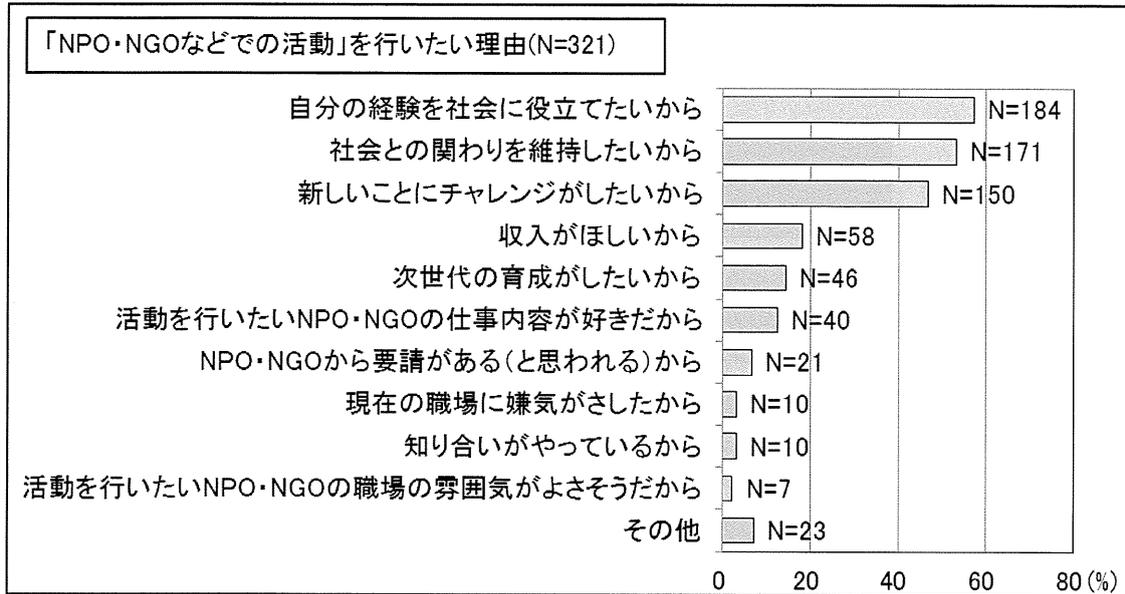


## 2-7. 定年退職後に行いたいと思っていることをどの程度の期間継続したいか

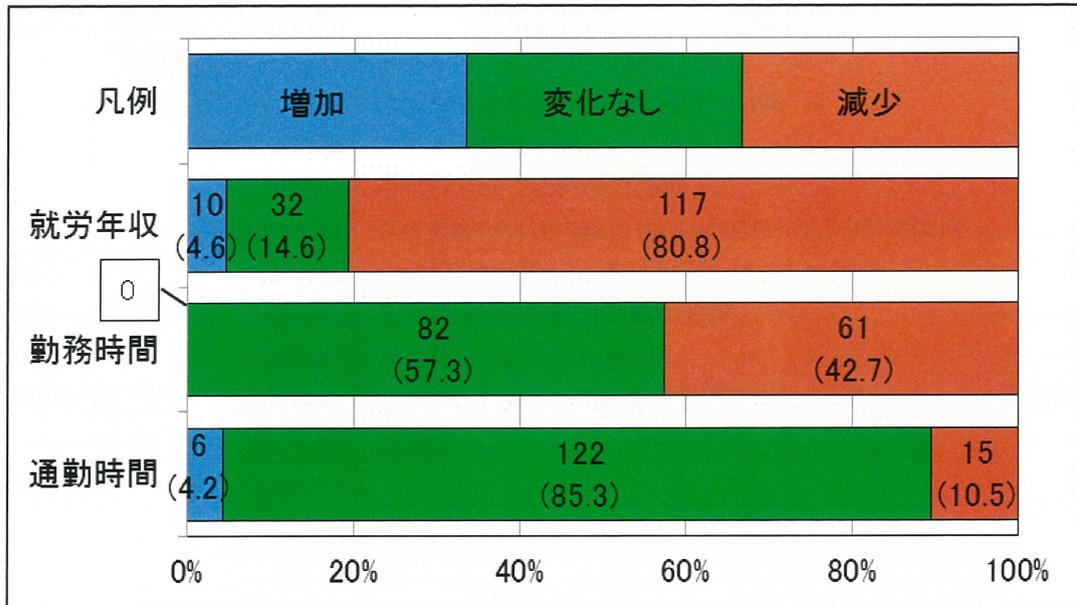


## 2-8. 定年退職後に就業を継続する理由（対象：定年前で就労している方）

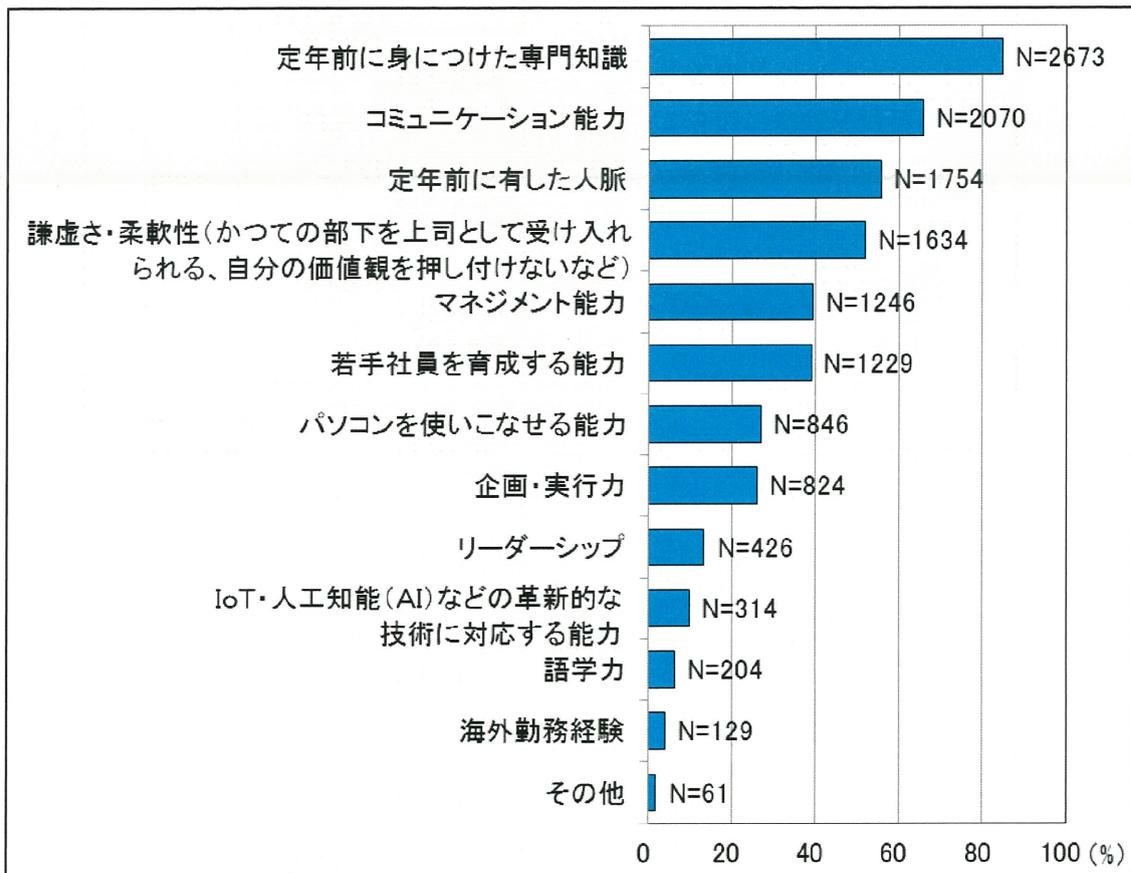




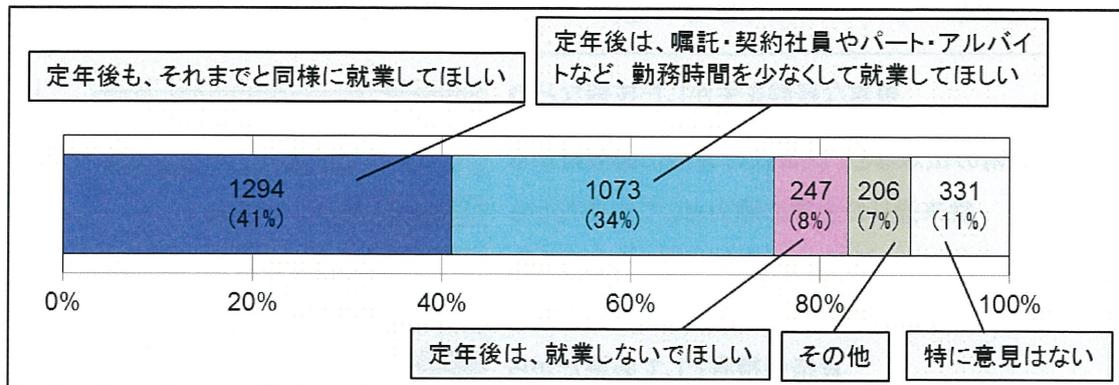
2-9. 定年退職後に就業を継続した場合の変化（対象：定年後就労している方）  
 （就労年収：N=219、通勤時間、勤務時間：N=143）



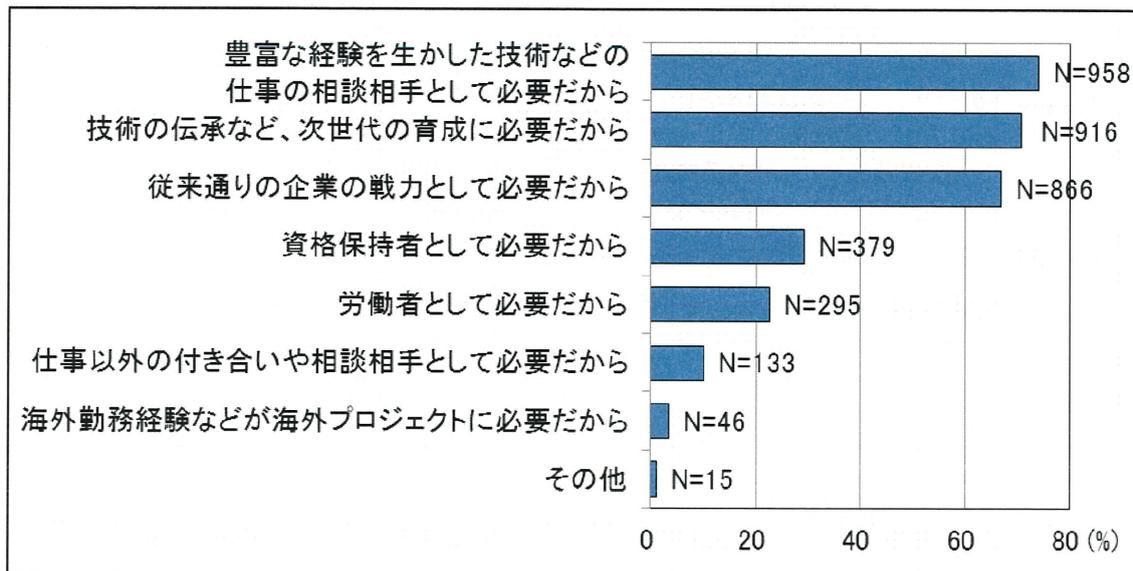
2-10. 定年退職後に必要と考える能力（N=3151，複数回答）



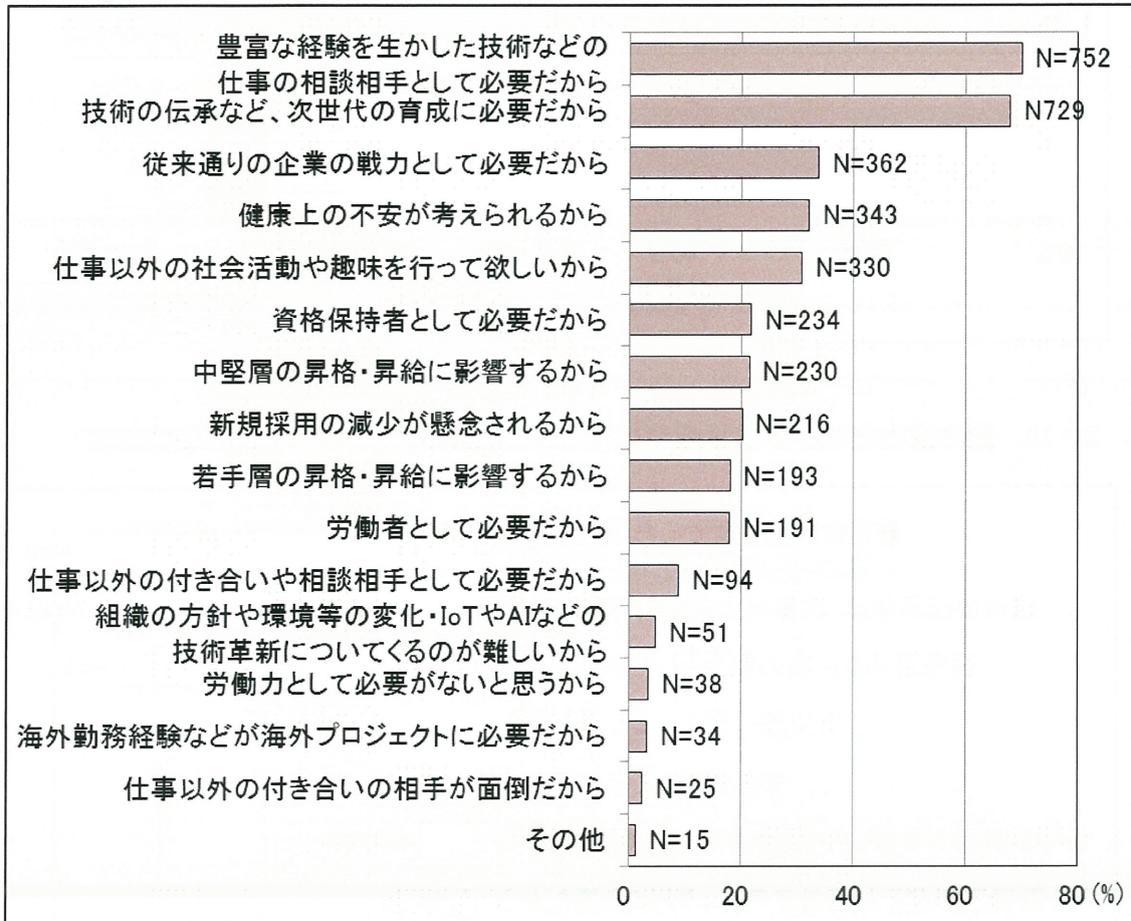
2-11. 定年退職後のシニアの就業に対する意見 (N=3151)



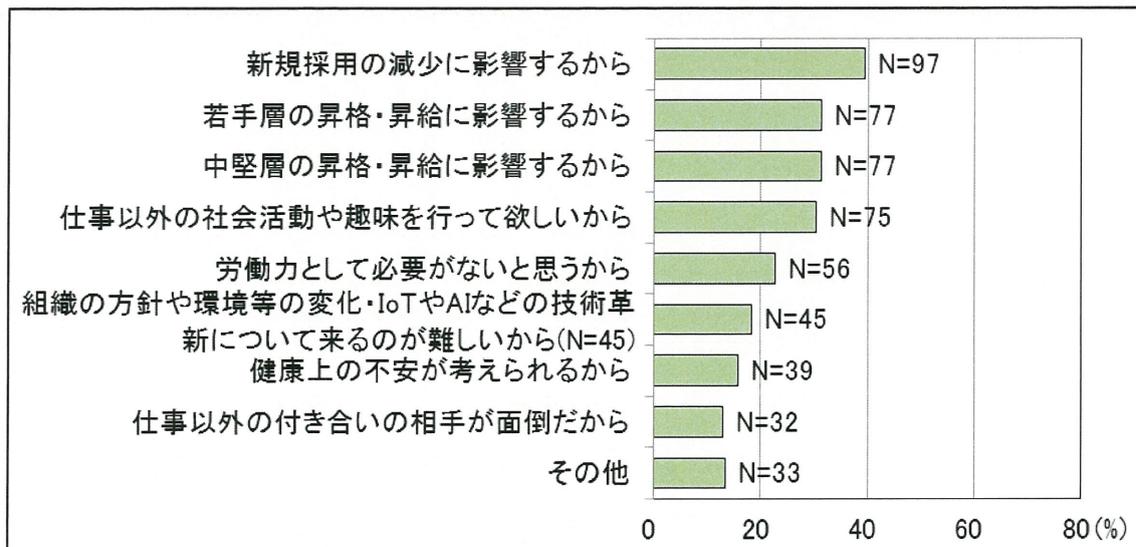
2-12. 定年退職後のシニア技術者に就業して欲しい理由 (N=1294, 複数回答)



2-13. 定年退職後のシニア技術者に嘱託・契約社員やパート・アルバイトなど、勤務時間を少なくして就業してほしい理由 (N=1073, 複数回答)



2-14. 定年退職後のシニア技術者に就業してほしくない理由 (N=247, 複数回答)



平成 29 年 8 月吉日

土木学会関係企業  
代表取締役社長 殿

公益社団法人 土木学会  
教育企画部門 主査理事 中川 一  
教育企画・人材育成委員会  
成熟したシビルエンジニア活性化小委員会 委員長 加藤 隆

## 定年退職後の技術者の雇用に関する実態調査へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より土木学会の運営につきましては、種々のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

土木学会では、シニア土木技術者が担うべき役割や期待されている役割を把握するために、平成 19 年および平成 24 年に企業内の定年退職後の技術者雇用に関する実態調査を実施いたしました。アンケートより、技術伝承や労働力確保に対する危惧、シニア技術者のモチベーション向上の必要性などいくつかの課題が浮き彫りとなりました。平成 24 年調査から 5 年が経過し、シニア土木技術者を取り巻く状況が変化していることを踏まえ、シニア土木技術者の担うべき役割や活性化などについての基礎情報を整理するため、再度アンケート調査を実施することといたしました。

つきましては、貴社における定年退職後の技術者雇用について、以下に示す回答方法に沿ってご回答をいただきたくお願いする次第です。多事多端の折、誠に恐縮ですが、アンケート調査にご協力をお願いします。また、前回のアンケート調査結果は土木学会誌に取り纏めております。同封しておりますので、ぜひご覧ください。ご回答頂いたアンケートは取り纏めを行い、後日フィードバックさせていただきます。

### アンケートの目的

成熟したシビルエンジニアが、今後の社会資本整備等において果たすべき役割や、それを通じての活性化を検討するための基礎資料とします。

### アンケートの活用

調査結果につきましては、企業名や個人名が特定されるような扱いは一切行わず、統計的に分析して土木学会ホームページ等で公表する予定です。

なお、ご回答いただいた企業様には個別に調査分析結果を送付させていただきます。

### アンケートの回答方法

以下の手順でご回答いただきますよう、お願い申し上げます。

- 1) 添付の調査用紙にご記入ください。(電子データも入手可能※)
- 2) 記入した調査用紙を返信用封筒に入れてご返送ください。(メール添付で送信可※)
- 3) お答えしにくい個所がありましたら、空白でも結構です。

### アンケートの回答締め切り

平成 29 年 9 月 30 日までに、ご回答ください。

敬具

※アンケートは以下から電子データを入手可能です。また、アンケートの回答につきましては、お問い合わせ先メールアドレスにお送りいただいても結構です。

<http://committees.jsce.or.jp/education05/node/1>

お問い合わせ先

土木学会事務局

会員・企画課：菅原 健介（教育企画・人材育成委員会担当）

土木学会 教育企画・人材育成委員会 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会

委員長 加藤 隆

委員兼幹事 澁谷容子

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目（外濠公園内）

TEL: 03-3355-3435 FAX: 03-5379-2769 E-mail: [seijuku@ml-jsce.jp](mailto:seijuku@ml-jsce.jp)

以上



- (IV) 賃金**      1. 概ね下がる傾向      2. 概ね変わらない傾向      3. 全くケースバイケース  
4. その他

「3. 全くケースバイケース」および「4. その他」をお選びの方はご記入下さい。

**Q4. Q3(4)で「1. 概ね下がる傾向」をお選びになった企業のみお答え下さい。定年退職後の雇用における賃金の平均的な減額率を記入してください。年々下がるまたは、変動する場合は、再雇用期間全体のおおよその平均をお答えください。**

1. 20%減未満      2. 20～30%未満減      3. 30～40%未満減  
4. 40～50%未満減      5. 50～60%未満減      6. 60～70%未満減  
7. 70～80%未満減      8. 80%減以上

年々下がる場合や、役職および雇用形態によって変動する場合は以下に補足をご記入下さい。

例) 役職によって増加する場合もあるが、再雇用者の平均として30%程度下がる。年々下がるが、再雇用期間全体としては、平均的に50%程度下がる。など

**Q5. 定年退職後の技術者の再雇用に関し近年6年間の定年退職者数と再雇用者数を記入してください。例えば2011年に10名の技術者が定年を迎え、5名を再雇用した場合、a) 10名 b) 5名 (b/a) 50%**

	a) 定年退職技術者数	b) 再雇用技術者数	% (b/a)
2016年度	名	名	
2015年度	名	名	
2014年度	名	名	
2013年度	名	名	
2012年度	名	名	
2011年度	名	名	

**Q6. 定年退職後の技術者の再雇用に関し、技術者のモチベーションを上げるために設けている制度等について、貴社で導入されている制度を下記からお選びください。(複数回答)**

1. 能力のある技術者の定年退職の延長 (定年退職年齢の引き上げ)
2. 能力のある技術者の職位面での優遇
3. 能力のある技術者の給与面での優遇
4. 定年退職後の技術者にも業績により賃金格差をつけている
5. 能力のある技術者の雇用期間の延長
6. 特に何も導入していない
7. その他

「7. その他」をお選びの方はご記入下さい。

**【2】再雇用終了後のさらなる継続雇用についてお伺いします。**

Q7. 再雇用終了後の技術者のさらなる継続雇用・活用に関し、あてはまるものをお選びください。(複数回答)

1. 高齢者雇用安定法の改正において義務付けられた継続雇用期間で終了.
2. 本人が希望すれば、全員、再雇用終了後さらに継続雇用する.
  - (1) ただし最長 (        歳) まで.
  - (2) 年齢は定めていない.
3. 本人が希望し、一定条件をクリアすれば再雇用終了後さらに継続雇用する.
  - (1) ただし最長 (        歳) まで.
  - (2) 年齢は定めていない.
4. 会社(組織)の都合で、再雇用終了後さらに継続雇用することもある.
  - (1) ただし最長 (        歳) まで.
  - (2) 年齢は定めていない.
5. 再雇用終了後、子会社等他の職場を紹介する.
6. その他

「6. その他」をお選びの方はご記入下さい.

Q8. 再雇用終了後の技術者の更なる継続雇用に関し、近年6年間の再雇用終了者数と再雇用終了後のさらなる継続雇用者数を記入してください.

	a) 再雇用終了後の技術者数	b) 再雇用終了後の更なる継続雇用の技術者数	% (b/a)
2016 年度	名	名	
2015 年度	名	名	
2014 年度	名	名	
2013 年度	名	名	
2012 年度	名	名	
2012 年度	名	名	

**【3】会社の構成および取組全体についてお伺いします。**

Q9. 貴社の年齢階層別の職員数(嘱託, 契約社員含む)を「技術職」「技術職以外」に分けて記入してください。

平成 ( ) 年 ( ) 月 ( ) 日 時点

	技術職 (内, 土木職)	技術職以外	計
24歳以下	名 ( ) 名	名	名
25歳～29歳	名 ( ) 名	名	名
30歳～34歳	名 ( ) 名	名	名
35歳～39歳	名 ( ) 名	名	名
40歳～44歳	名 ( ) 名	名	名
45歳～49歳	名 ( ) 名	名	名
50歳～54歳	名 ( ) 名	名	名
55歳～59歳	名 ( ) 名	名	名
60歳～64歳	名 ( ) 名	名	名
65歳～69歳	名 ( ) 名	名	名
70歳～74歳	名 ( ) 名	名	名
75歳～	名 ( ) 名	名	名
計	名 ( ) 名	名	名

Q10. その他, 貴社における定年退職後および再雇用終了後の技術者の活用に関する取組, 問題と認識していること, ご意見等ありましたら記入してください。

Q11. 貴社の業種をお答えください。

1. 建設      2. 建設コンサルタント      3. 製造      4. 鉄道      5. 道路  
6. 電力      7. ガス      8. その他( )

Q12. 貴社名をご記入ください。また, アンケート調査のご回答に関してご質問をさせていただく場合がございます。その際, 窓口となる担当者名, 役職名, 所属部署名, 連絡先を教えてください。

企業名: \_\_\_\_\_

ご担当者の氏名: \_\_\_\_\_

役職名: \_\_\_\_\_

所属部署名: \_\_\_\_\_

電話番号: \_\_\_\_\_

e-mail アドレス: \_\_\_\_\_

-----  
以上でアンケートはおわりです。ご協力, ありがとうございました。

# 「定年退職後の技術者の雇用に関する実態調査」

## 調査結果

2018年2月26日

土木学会 教育企画・人材育成委員会  
成熟したシビルエンジニア活性化小委員会  
委員長 加藤 隆  
担当委員兼幹事 澁谷容子

### 1 調査要領

#### 1.1 調査目的

シニア土木技術者が担うべき役割や期待されている役割を把握するために、平成 19 年度および平成 24 年度に企業内の定年退職後の技術者雇用に関する実態調査を実施した。シニア土木技術者を取り巻く状況が変化していることを踏まえ、再度、シニア土木技術者の雇用に関する実態調査を実施した。本アンケート結果は、シニア土木技術者の担うべき役割や活性化などを検討するための基礎資料とする。

1.2 調査実施期間：2017年8月～2017年9月末

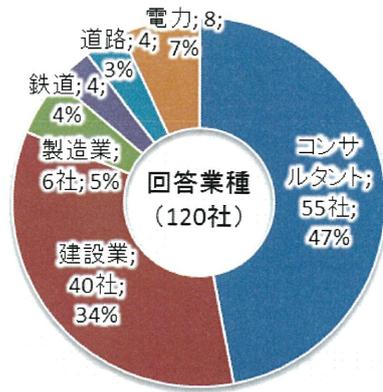
1.3 調査対象企業：土木学会会員数以上企業 204 社

1.4 実施方法：郵送

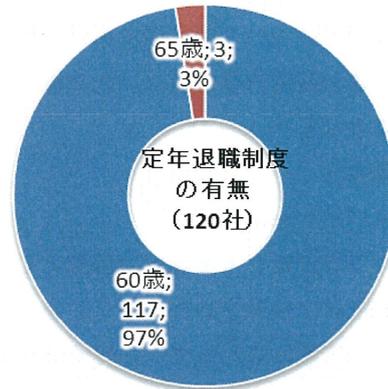
1.5 回答数：120 社

## 2 アンケート結果

### 2.1 回答企業の割合



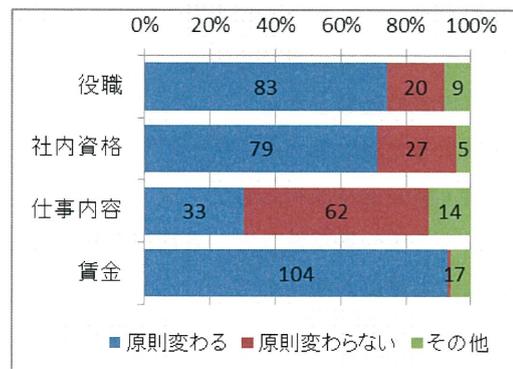
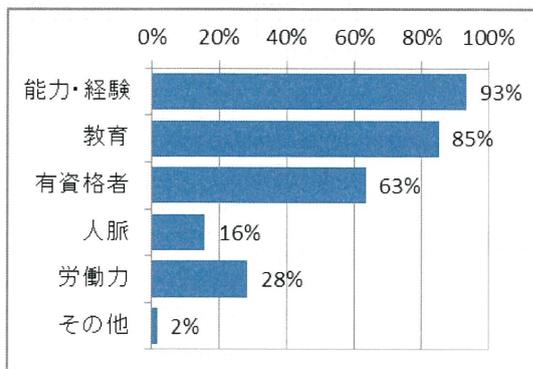
### 2.2 定年退職制度の有無



### 2.3 企業が望む定年退職後再雇用技術者の役割

### 2.4 定年退職後再雇用の処遇変化

(複数回答可)



#### ●定年退職後再雇用の処遇の変化

##### ◎役職

##### ケースバイケース

原則役職の任用は行わないが、業務上の都合により任用する場合もある

役職を外れることになる

定年時の役職位による

定年退職後の再雇用者も同様に管理役職者への任用および解任となるケースがあるため

個人の能力・退職時の役職等で異なる

原則として変わるものではあるが、社内の人員構成等、状況に応じて判断。

定年退職再雇用の事例がないため検討中

属人によります

賃金テーブルの変動

◎資格

ケースバイケース

社内規定による資格がないため回答不可

土木技術者については社内における資格を規定していない

定年退職再雇用の事例がないため検討中

属人によります

◎仕事内容

ケースバイケース

継続のプロジェクト実施中は原則として変わらない

管理職社員は役職を外れることがある。

サポート支援にまわっていただくケースと、定年前と同様の仕事内容もしくは量的にのみ減らすなど個人によりバラつきがある

既にポストオフしているので大多数はあまり変わらない。

人によって異なる

概ね、定年前の業務内容を引き継ぐことが多いが、「後継者育成」、「人脈の引継」、「後任の選定」などが再雇用後は重視される。

全員係職の仕事となる

人によって異なる

管理・監督業務は行わない

本人の希望や事業量など、各種状況を勘案して判断

個人の力量による

役職にはつかないため管理業務がなくなる

定年退職再雇用の事例がないため検討中

属人によります

場合により変わる。勤務日数により変わる。Etc.

◎賃金

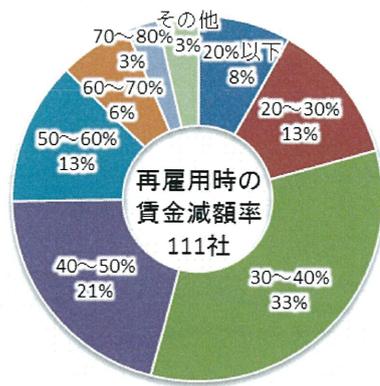
これまでの経験や総括ができるか否か、実際に総括をやるかによって賃金は大幅に変わる。総括が出来かつやった場合はあがる社員もいる。

定年を延長する場合はほぼ同等。再雇用の場合はおおむね下がる

手当、賞与の減額

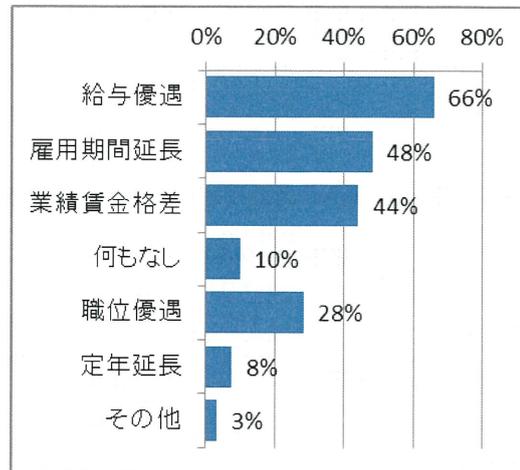
定年退職再雇用の事例がないため検討中

## 2.5 再雇用時の賃金減額率



## 2.6 定年退職後の技術者の

### モチベーション向上施策



### ●賃金の減額率

再雇用後に担う職責に応じて決定するため一概には記載できない

ケースバイケースであるが、再雇用初年度に20%程度、その後年園下がる(5-10%程度)

定年退職後も役職に就く場合は加算される。定年退職後も退職前と同等の業務を行うパフォーマンスは退職前とあまり処遇が変わらないコースも設けている。

年金受給開始時に2%減額。評価による変動もある。

定年退職後2年間は基本給が20%下がり、手当も対象外になるものがある

役職によって異なるが、一般職⇒再雇用であれば4(40以上50未満)

事業運営上特に必要な技術保有者(高度な専門職)等は「エキスパート職」とし、別枠で処遇。毎年の人事評価により変動する。

定年時及び定年後の役職位により異なる

原則50%程度だが、人によって担う職務の内容により70%程度の場合もある

役職によって増減する場合もあるが、再雇用期間全体としては平均的に30%程度下がる

雇用形態によっては同額もあるが、概ね40%減である

定年時の役職、職位によって異なる。上記の回答は標準給与モデルの場合

減額率はケースバイケース

管理職以上を継続する場合は変わらない。それ以外は下がる傾向

役職はそのまま賃金はさがる

基本給(60才時点)の60%が基本(別途資格手当支給)。1年毎の契約とし、評価によりupすることもある。

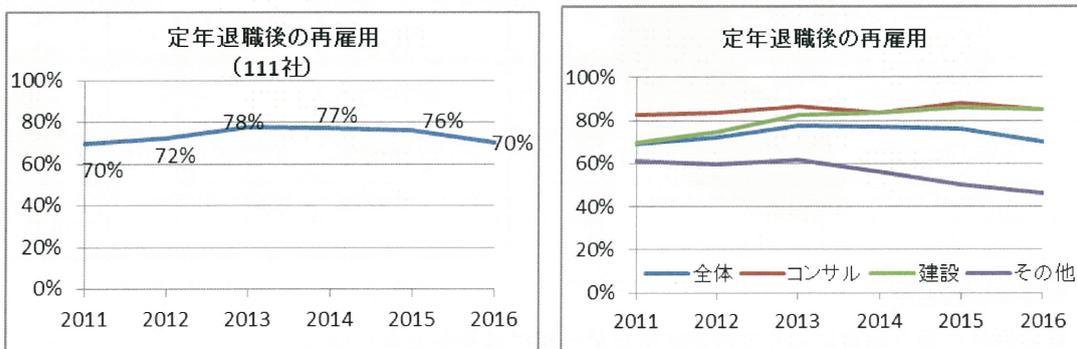
社内規定により賃金が決定(下がる)。増加および現状維持はない。

事務職30%程度。技術職40~45%程度

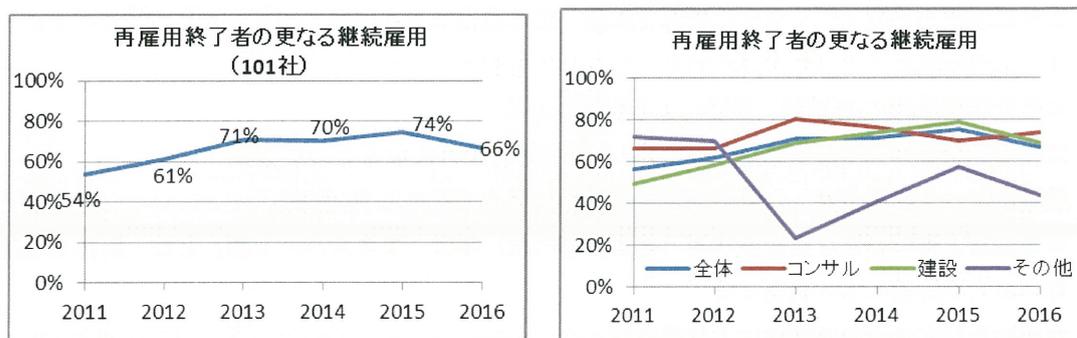
規定上は定年退職年々下がることにしているが、現在は再雇用直後の年収を維持している

- 定年退職者のモチベーションの向上に対して  
再雇用後に担う職責に応じて賃金差をつけている。  
担当業務により給与面での優遇  
定年後は嘱託で再雇用  
検討中

2.7 定年退職後の再雇用率（再雇用者数÷定年退職者×100%）



2.8 再雇用終了後の更なる継続雇用率（更なる継続雇用者数÷再雇用終了者数×100%）



2.9 年齢階層別職員数

